

会報

かけはし

(題字 支部長 神山則幸)

令和 3 年 2 月 1 日
第 56 号
発行者
神山則幸

各教科等、学校行事の

正常化を願う 副支部長 加藤 慶隆



今日のコロナ禍で各種の学校行事が中止あるいは延期縮小を余儀なくせざるを得ない状況で、現場の管理職はじめ教職員の方々の無念さはいかばかりかと拝察する。

私は現職時代小学校の体育主任を十数年間努めてきた。それ故、特に体育的諸行事については思い入れが深い。体育的諸行事は学校運営の中核を担うものと自負していた。教務主任、体育主任を兼務していた時、学校行事のその都度、計画書を作成し周知してきた。その度に会議を開いていたがその時間を省くことはできないか模索してきた。せめて体育的諸行事だけでもと考え、そこで発案したのが「体育的行事実施計画書」である。

それは体育部員がそれぞれ分担してそれぞれの行事計画を約七十ページの冊子にまとめあげたものである。それにより年間の体育的諸行事の実施計画を年度初め、四月中の職員会議に一括提案し承認を得て、行事毎の会議を省き学校運営の円滑化に寄与できたという思い出がある。

巻頭部分を紹介すると、

児童生徒の育成に大切な環境

朝霞班 星野 利男



将棋の藤井聡太棋士が次々と新記録を樹立し、将棋界にブームを巻き起こした。「やり始めたらとことんやる集中力があつた」と母親は語る。子どもの特性をしっかりと

「今年度も体育部として年間行事の実施計画書を作成しました。学校行事は多岐にわたってありますが、特に体育的行事に関しては事前に十分な準備および指導を要するもの、あるいは全職員で取り組むものがほとんどです。そこで本書を作成し、全職員のご協力をお願いすると共に事前の指導に活用していただき、体育的行事がより円滑にできる様お願いするものがあります。

〈内容〉①～⑨(略) 体育部』
新型コロナウイルスの流行は今だに予断を許さぬ状況が続いているが、来年度までの収束を願いつつ、体育的諸行事はもとより、各教科等の学校行事、学校運営の正常化、充実発展を願うものである。

り把握し、やりたいようにやらせる、それを温かく見守るといふ姿勢で両親は一貫していたという。
一方、杉本棋士は地域で行われる将棋大会等で将棋に強い小柄な少年二年の少年に注目した。その少年はひとつひとつの駒の性能を把握し、それを最大限に發揮させ

るように指していた。この少年はタイトルを取る棋士になると思つた。この少年(藤井聡太)の才能を発見した瞬間でもあつた。藤井聡太は小学四年のときに杉本棋士に弟子入りした。そのとき杉本棋士は内弟子にしたいと思つたがしなかつた。師匠の影響を受け過ぎるのは良くないと考えたからである。その子の本来もつているもの、得意なものを殺してはいけないと考えたのである。過度の師匠の影響を受けないよう藤井少年には兄弟子と対局させ、師匠はそれを横で見ている形を多く取つた。そして終つた後、感想戦を楽しむとか一緒に将棋の真理を追求するといふ感覚で接したという。この師匠の考えや指導方法は藤井少年の才能の育成に効果的であつた。
藤井聡太棋士は高校進学はブラスだと強い意志を持ち、プロ棋士と高校生活を両立させている。しかも学業は優秀であるという。十四才でプロ棋士になり、わずか四年後の現在、棋聖・王位の二冠更に八段である。杉本師匠がテレビで発言した「彼はまわりを良き大人に囲まれていた」という一言が印象的である。

会員短信

遊び続けて十周年

蕨・戸田班 篠原 和人

退職後、地域の公民館講座で出会った仲間と遊びの学校を立上げ、十年が過ぎた。昨年はコロナ禍の影響も受けたが、これまで四百回以上の活動をこなすことができた。四季折々の散策、街道歩き、社会見学、B・B・Q、写生会、演奏会、文化祭、料理、水墨、写経、俳句、ダンス、麻雀、競馬、デイスコン等。職種も異なり、様々な人生経験を積んだ人との交流も楽しく新鮮だ。肩書き抜きで気軽に笑いの絶えない会を通して、目下、心身の健康づくりに努めている。

対話の楽しみ

草加班 山本 好一郎

退職校長有志で始めた読書会。「言志四録」を読み、話し合う月一度の集まりが大切なひとときとなっている。互いの話は時に教育、文化、政治等にも発展する。古典の難しい内容よりも、むしろこの自由な思いのやりとりが刺激になる。人の話を聞き、自分の考えを深める体験は貴重なものだ。子どもたちには、対話を通じ新しい解

を生み出す力が求められるという。なぜ求めてばかりなのだろう。対話は発想を生む。長幼の別なく、楽しく体感できるものと思う。

「よしすせそ」

川口班 大塚 利博

コロナで遠出ができません、日々悶々とした生活が続いています。仕方ないので、暇に任せて近所の散歩の他、料理に挑戦することにしました。料理は、肉や野菜の大きさや切り方、調味料の量や入れる順番が違っていると、味に違いがでてきます。調味料は、レシピ通りの分量で、「よしすせそ」の順番で入れますが、染み込みにくい分量の大きな砂糖を先に入れ、揮発性物質(香り)を大事にする味噌は後に入れるなど、まるで理科の実験をやっているようで楽しいです。

初心に戻る

朝霞班 山本 和夫

退職し12年が経ち、時間の使い方が自由になりました。人はとかく日々の生活に変化が少ないと惰性に流れ、マンネリ的な生活になりがちです。世阿弥は「初心忘るべからず」と言っています。さらに「是非によらず、修行をはじめたころの初心の芸を忘れてはならぬ」とも言っています。このコロ

ナ騒動のおり、新生活様式が叫ばれています。この時こそ「健康な生活を送る」という初心に戻る必要であると考えます。

淡々と

川口班 高木 慎二

自由人となった今年、視察で訪れたイタリアを歩きたいと思っただが、コロナ禍で叶わず、都内や近郊のギャラリーや美術館を廻る。陶磁器の鑑賞が主であるが、残念ながら目利きではない。いろいろな方と話す、新しい視点で見ることが出来、感心し勉強となる。

先日、元総理の細川氏の個展を見た。薬師寺東塔の基壇土での作品。東塔を千三百年余支えた土。その土が作家により新しい生命が吹きこまれ甦る。久しぶりに奈良京都を散策したい気持ちになった。

禍の中で

蕨・戸田班 石橋 裕

退職後、5年が経過しようとしています。在職中多くの皆様からご厚情を賜りましたことに、感謝の気持ちが込み上げて参ります。現在、音楽科高校に勤務しながら、系列大学教職課程の授業を担当しております。本年度は、音楽の道を志す生徒・学生にとって、試練の日々でした。演奏会はこと

生涯にわたる自発的な学び、豊かで健やかな人生を支援する教育

和光市教育委員会教育長

大久保 昭男



戦後、最も大きな改革としてスタートした

二〇二〇年教育改革では、二十一世紀型教育やグローバル教育における子供たちの「学び方」の質的な転換が重視され、新時代に対応できる学びを創っていくことが課題となっています。また、人生一〇〇年時代におけるマルチステージの学びに対応する生涯学習の在り方も重要な課題であり、それらを踏まえた本市の教育行政施策の一端を紹介します。

「確かな学力の育成」

新学習指導要領を踏まえた教育課程の確実な実施とともに教員の指導力の向上に努めています。児童生徒には、習得した知識・技能を基に、よりよく問題を解決していく確かな学力を身に付けさせるために、市独自の少人数学級推進教員、学力向上支援教員を配置し、きめ細かな指導を通して「学力の向上」を図っています。

ごとく中止となり、練習もままならない状況の連続です。この中で苦悩しつつ地道に意思を貫いている若者から学び、微力ながら支援者でありたいと考える日々です。

あつみの口

川口班 大野 光雄

「川口市立水上少年自然の家」での勤務も四年目だ。今年は新型コロナウイルスで自然教室も中止となった。私自身は単身生活にも慣れ、休日には群馬県内の観光地や温泉などを訪れたりしている。

初冬の晴れた日の通勤時には白い雪を纏った谷川岳が青空に映える。その遠い頂上を見るたびに、意を決して挑んだ去年の夏の日を思い出す。初めての本格的登山が谷川岳への単独登頂だった。甘く見ていた。途中で何度も引き返さうかと迷ったほど辛い一日だった。

孫は未来の宝

草加班 阿部 豊

娘二人が嫁いで一安心。妻と二人きりの生活が久しぶりに訪れた。さぞかしのんびり過せると思いきや、何となく心にポカリと穴があった。この穴をどうやって埋めようかと呻吟する日々となった。

しかし、この重苦しい場をパッと明るくする存在が誕生した。初

孫である。近くに嫁いだ娘の孫が毎日のように我が家に訪れ、話題に事欠くことがなくなった。ジー・バーバに明るい未来が訪れた。「孫は未来の宝」といわれることを実感している昨今である。

芸術の秋？

川口班 川田 博史

秋から冬へと季節が移ろい始めた十月の或る日。子供達とグリーンセンターへ写生会に行きました。久しぶりに絵筆を持つので不安や緊張で少々興奮気味でした。

当日は遠近感のとらえ方や水彩絵の具の水の加減などのレクチャーを受けて「なるほどなあ!」と思いつつ、いよいよ下書き、そして着色。自然の緑色の見事なグラデーションが紅色や黄色の葉と折り重なって素晴らしいなあ。マスクも外して解放感を満喫しました。作品の出来については秘密です。

スケッチブックを抱えて

朝霞班 阿保 資江美

里桜、花霞、花あかり、花筏。弘前生まれの私は、毎年桜の追っかけを楽しみにしています。昨年は叶わなかったもので、この春はスケッチブックを抱えてゆつくり桜にあいに行こうと思っています。

現在、学校訪問や教職を目指す学生の学校体験実習で一緒に勉強しています。コロナ禍で知恵を絞って対応されている先生方との出会いに感謝し、子供たちの笑顔や歓声を元気にもらっています。次代を担う方々にもう少しだけ、受けた恩を繋ごうと思っています。

MINO's view

川口班 熊谷 芳美

再任用も残すところ二か月となった。恩返しで始めた初任者指導だったが、果たして初任者の心に火をつけることができたであろうか。

さて、いよいよ四月からは第二の人生の始まりである。三つのいくじを楽しもうと考えている。まずは健康のために何時でも散歩することである。二つ目は孫の育児支援である。三つ目は意気地がなくなったが地域でのボランティア活動である。自分がしてもらったように。

会員短信の訂正

会報55号 武井一美先生の会員短信に校正の不備による誤りがありましたので、ここにお詫びし訂正をさせていただきます。

三行目

「マルタ会議」↓「マルタ会談」

九行目

「級友」↓「旧友」

「地域と連携した教育の推進」

児童生徒に生きる力を育成していくためには、家庭・地域の持つ教育力を活用して、学校・家庭・地域が連携した協働活動の推進が重要となっています。C・Sを全小・中学校に指定し、各学校が地域社会の核となって地域の活性化を図るため、各校区に設立された地区社会福祉協議会等と連携した活動を推進しています。

「放課後児童の居場所づくり」

少子高齢化が進む中で、時代を担う人材育成の観点から、共働き家庭等の児童に限らず、全ての児童が放課後等に多様な体験・活動ができる施設の整備を進めています。「わこうつくクラブ・子ども教室」は、安全・安心に過ごす居場所であり、児童保育クラブとの一体型運営の推進を図っています。

「生涯学習支援の推進」

本市に立地する理化学研究所や様々な国の機関等の「知的財産」を市民の学びに有効活用することで、知的好奇心の高揚が期待できます。市民が生涯にわたって学び続けられる教育環境の整備を通して、豊かで健やかな人生を支援する教育の充実を目指しています。

支部だより

緊急役員会開催

コロナウイルス感染症の拡大状況は秋を迎えても、好転せず、令和二年度現職・退職校長北足立南部支部教育推進協議会の開催も困難な状況となった。

そこで、このことについて、令和二年十月十六日(金)並木公民館に於いて支部長・各班副支部長による緊急役員会が開催された。

その席で、これ迄、推進協議会実施にむけて準備してきたが、

- ①退職校長会の諸行事を中止している
 - ②現職校長に負担をかける
 - ③教育事務所に迷惑をかける
- 以上の意見が出され、令和二年度現職・退職校長北足立南部支部教育推進協議会は紙上発表とするこ

教育推進協議会

紙上発表で開催

令和二年度現職・退職校長北足立南部支部教育推進協議会は、参加予定者に発表資料を送付し、意見・感想等を募る紙上発表として開催された。

ご冥福をお祈りいたします

11/1以降亡くなられた方々(11/11現在)
 山田 増一様(川口) 11/4 八十八歳
 工藤 勘吾様(川口) 11/6 八十八歳

以下に発表者と標題を再掲する
 ①【コロナ禍における本校の学校経営について】



朝霞市立朝霞第七小学校
 福士 昌三 校長

②【自利利他を目指す学校経営】



草加市立松江中学校
 小林 和広 校長

③【大貫海浜学園における現状と課題】



退職校長会 川口班
 滝澤 榮則 元校長

発表資料は県退職校長会ホームページ南部支部の覧に掲載されているので閲覧されたい。また、県退職校長会会報令和三年一月号に要約文が掲載されているのでご一読いただきたい。

県退職校長会理事會報告

令和二年十月二十八日(水)浦和コミュニティセンターにおいて県理事會が開催され、以下の事項が決定された。

- 定期総会について
 - ①代議員数の変更 112 → 115 に
 - ②午後一時開始
 - ③アトラクション・美術展は実施しない
 - ④懇親会の実施は支部判断
 - 研修費として一人二百円支給(総会中止に伴う経費削減により)
- (和田 悦男)

班だより

朝霞班

本年度の総会は、コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とし、書面議決となった。新会員二名を迎え、会員百九名でスタートした。会員の親睦と連絡を図ることを目的に、次のような活動を企画している。コロナ禍の影響により、例年より行事への参加は少なくなっているが、感染防止に意を注ぎながら交流を深めている。

BBQを楽しむ会

十月二日、スーパにて食材と飲み物を購入し、民間の施設へ。炭火で焼き上がる食材にアルコールが加わり、和気あいあい楽しいひとときを過ごした。

会報発行

会員が自由に寄稿できる文集として、班四市の頭文字を組み合わせた『SWAN』第十六号を十一月に刊行した。例年四十五ページほどの貴重な寄稿がある。

健康ハイキング

十一月二十四日、板橋十景の一つでもある、通称「東京大仏」をメインに「松月院」「区立赤塚植物園」など、



樹木の多い赤塚界隈を無理のないコースを設定し、散策した。その後、おいしい蕎麦を食べながら近況などを報告し合った。

その他

令和三年一月二十一日には、「新年親睦懇親会」(コロナの収束を！新年が良い年でありますように！などの願いを込めて)を予定していたが中止決定。(柿崎 勲)

班だよりの訂正

会報55号 草加班の班だよりに校正の不備による誤りがありましたので、ここにお詫びし訂正をさせていただきます。

教育支援の継続

- 「第二次教育振興基本計画」
- 「第三次教育振興基本計画」

あとがき

北足立南部支部会報「かけはし」第五十六号をお届けします。公私ともにご多用の中、玉稿を賜りました各位に、衷心から御礼を申しあげます。

新型コロナウイルスの感染拡大が、医療崩壊を懸念するほどとなつてまいりました。様々な事業も縮小を余儀なくされるなか、会報「かけはし」の果たす役割の大切さを、改めて自覚しております。今後、部員一同尽力いたしますので、よろしくご指導をお願いいたします。(羽富 正晃)